

乳幼児期の発達

	乳児期の精神活動	対人交流	ものの操作	模倣	コミュニケーション
1~4ヶ月	能動性を意識する 自分の活動が状態を変化させると気づく。 例)目をつぶると見えなくなる。 例)身体的不快を感受・表出すると、不快が取り除かれる。 3~4ヶ月 ものより人への関心	養育者の役割は、子どもに能動性を目覚めさせ、自分には自分の置かれている事情を変える力があるのだという自信を持たせることである。 自分の活動について 例)目の開閉⇔養育者の声掛け・笑いかけ・表情 自分の状態の感受	自分の活動が状態を変化させると気づく(まだ対象という意識がない) 例)目をつぶると見えなくなる 例)身体的不快を感受・表出すると、不快が取り除かれる		
4~8ヶ月	目的イメージを持つ 外界に特定の変化を起こすことをねらって活動する 例)吊り下げられている玩具が揺れるのを見たくて、手足をバタバタさせる 外界の因果関係はまだわからない 努力がむくわれれば、さらに外界の変化への関心が広がっていく。 自分の活動とむすびついた外界の変化への関心。	養育者は子どもに働きかけて、見せたいものに注目させ、生じさせたい喜怒哀楽を誘発する。 覚醒度について、注意を向ける対象について 情緒反応について、自我形成の援助について *子どもは受け身での共同体験を通じて、自分と親とが同じようにみたり、感じたりするものだと分かるための経験を積み重ねている	外界に特定の変化を起こすことをねらって活動する。いわゆるmagical stage 例)吊り下げられている玩具が揺れるのを見たくて、手足をバタバタさせる		
8~12ヶ月	探索学習のはじまり いろいろな対象に働きかけて、手応えを基に学ぶ。 例)食卓の上にあるものを、次々に下に落として眺めている。 例)クルクル回るものを指先で上手に回して見つめている。 例)ひっくり返して眺めたり、引出の中から品物を引っ張り出したり、扉を開けたり閉めたりする。 外界の何に注目するか	子どもは親が何を見ているか、どう感じているかを能動的に知ろうとする。 注意の向け方⇔親が触れているもの、見つめているもの 情緒反応⇔親の表情に注目する *この時期の受け身の模倣は、自分と親が同質の行為主体であることを理解する体験のひとつである	探索活動(学習)の始まり いろいろな事物に働きかける(レパトリーが少なく、常同的) (なめる、かじる、ふる、叩く、落とす)	受け身の模倣:反復練習の芸術	理解 呼びかけられると振り向く 指されるとその方向や対象を見る 表出 「アー！」と声を出し、親の注意を引く 親の手を対象に押し付けて操作を要求
12~18ヶ月	探索の本格化と自発的模倣 ①操作法の違いや、力の入れ方の違いによって、結果が変わることを学習する。 例)物を放す位置をいろいろ変えて、落ちる場所が変わることを観察している。 ②振ってもダメなら引っ張ってみるような、試行錯誤の工夫をする。 ③他人のやり方を見て、まねする。 例)母がテーブルを拭いていると、自分も布をつかんでテーブルをこす。兄が絵を描いていると、自分も鉛筆を握って紙の上で動かす。	自分と親は同じ存在であると分かる 行為について⇔自発的模倣 情緒について⇔social referencing	自発的模倣と探索の本格化 ①他人のやり方を見てまねる 例)母がテーブルを拭いているら、自分も布をつかんでテーブルをこす。 ②やり方の違いや、力の入れ方の違いで、結果が異なることを学習する 例)物を放す位置をいろいろ変えて、落ちていく所が変わるのを観察する。 ③振ってもダメなら、ひっぱってみるような試行錯誤の工夫をする	操作法を模倣して学ぶ 自分から人のやることを見て、まねる	表出 自分から指さして、対象を伝達する。玩具をつかんで差し出して、操作を要求する。言語表現の始まり
1歳3ヶ月	けじめやきまりに関心もないし、理解もできない。それでもみんなと一緒にしたことが一人遊びよりも面白かったという体験を重ね、将来の社会性への根が作られる。 (世界は自分を中心に回っている)	大人に甘え、ふざけて遊んでもらう 自分の意思をしっかり持ち、相手にぶつける	まだ造形の意図がない。積んだり崩したり描画を残したり、はめたりはずしたりが楽しい。		簡単な言いつけが分かる 「くつ、もっておいで」
1歳後半~2歳					問いかけに返答する 「食べるの？」→「タベル」
2歳後半~3歳		(子ども同士で遊ぶようになる) レジスターごっこや怪獣ごっこで短時間のやり取り 気持ちにはゆとりのあるときには、相手の意見を受け入れる。	造形の意図をもって遊ぶ。 積み木でトンネル、クレヨンで顔を描く。 自分イメージの実現のために物品を取り扱う。(転用する)		さっきの出来事、別な場所での出来事を報告できる
3歳後半	集団場面には、何か約束事があるらしいと気づき始めている。しかしルールが分からず心細い。お手本を示してくれる友だち、手をとって応援してくれる先生を求めている。	(集団意識のめばえ) 場面や事情に合わせて振舞うべきである、と理解し始める。			
4歳後半以後	今、どういう事情なのか、自分はどういう立場なのかを理解できる。 役割、善悪、ルール違反がわかる	(グループ遊びができる) ジャンケンで勝敗がわかる ルールがわかる			